



令和3年12月14日（火）



こころ

さて、12月8日（水）からはじまった期末考査も本日で終了です。先日、あるクラスにホームルームでいくと、生徒たちが現代文の教科書を読んでいました。何を読んでいるのか聞いてみると、夏目漱石の「こころ」で、今回の期末考査の範囲のようです。私も高校時代を振り返り、懐かしんでいました。現代文は苦手で、あまり気乗りのしなかった私ですが、この「こころ」は先の展開が気になり、授業中に最後まで読み進めているところを先生に見つかり叱られたのが記憶に新しいです。推理小説などはよく読みましたが、純文学など、堅苦しいイメージで、敬遠していた私でしたが、新たな世界を教えてくれた小説でもあります。先日、補習中に生徒の皆さんにも話しましたが、「こころ」は「彼岸過迄」「行人」に続く夏目漱石の後期三部作の最後の作品で、「行人」を読むと、また「こころ」の解釈や見方も変わってくるので一度読んでみてはいかかでしょうか。